

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104555
法人名	有限会社ユニット・ワン
事業所名	グループホームユニットまつやま
所在地	松山市井門町790-1
自己評価作成日	平成24年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 10 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>広い敷地を利用し季節の行事を取り入れるようにしている。常に音楽(ピアノ、ハーモニカ等)に触れる環境、季節の花々を感じることが出来る環境作りに努めている。 穏やかな生活が送れる様、援助している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園が広がる自然豊かなところにある事業所は、広い敷地に平屋の建物で、利用者、職員共にゆったりと生活できる。2つのユニットは玄関ホールでつながっており、利用者と職員は自由にユニット間を行き来している。リビングからは中庭や縁側に自由に出ることができ、憩いの場所になっている。「ゆったりとした癒しのなかで過ごしていただきたい」という思いで、医療と介護の専門職が協力しながら、利用者の落ち着いた暮らしを支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームユニットまつやま

(ユニット名) A棟

記入者(管理者)

氏名 町田 千香子

評価完了日 平成 24年 9月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 新しくユニットまつやまの独自の理念を作り、家族・来訪者の方にも分かるよう玄関掲示、スタッフルームに掲示することで理念の実施に努めている。</p> <p>(外部評価) 「地域の人たちとお付き合いを大切にする」「目配り、気配り、思いやりのある介護を提供する」「安全安心を守るため優先順位、臨機応変の対応と誠実な態度で望む」という「私たちの理念」をもとに、ユニット毎に具体的な言葉で行動指針を作成し、全員で理念を意識しながら毎日の業務にあたっている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 回覧板等で地域の催し物を知り参加させて頂いている。</p> <p>(外部評価) 回覧板を通じて地域の情報は把握している。町内会長や民生委員から市民大清掃や公民館の行事への参加の誘いを受け、利用者と一緒に参加している。地方祭の神輿は毎年来てもらいお接待をして交流している。</p>	近所の高等学校は災害時の避難場所にもなっており、普段から積極的に交流を持ち、事業所のことについて情報提供しておくことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 見学時等に相談に乗ることもある。地域主催の独居の人対象の施設説明会に参加し、話しをさせて頂いた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回行い、利用者の家族や市の職員、地域代表の方に参加してもらっている。議事録も玄関に張り出しいつでもだれでも閲覧できるようにしている。季節ごとの行事の写真やまつやまだよりを見て頂いている。	運営推進会議に地域の方が参加しやすい工夫を期待したい。
			(外部評価) 今年度は会議の進行を工夫することで、参加者から積極的な意見が出るようになってきた。各方面からの参加者を増やす取組みとして、避難訓練を兼ねて開催したり、新規入居者の家族の参加を促したりしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事業連絡会には出席している。また推進委員会にも参加してもらっている。市や社協、包括センターなどの研修に参加し担当者と話したりしている。	
			(外部評価) 運営推進会議を通じて市担当者、地域包括支援センター職員との積極的な情報交換と協力関係を継続している。災害時には直接市からの情報が得られるようシステムを整備している。生活保護受給の利用者を支援するため、生活福祉課担当者との協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 自動ドアだがスイッチを別にしており職員が操作しないと開かない。希望時には希望にそうように対応し入居者さんを外に出している。	
			(外部評価) 安全面を考慮し玄関の施錠は行っているが、職員と一緒に出かけるなど見守りをして、利用者の自由な暮らしを心がけている。職員は普段から身体拘束をしないケアについて意識しながら業務にあたっており、管理者は機会あるごとに指導している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉、身体的虐待がないか職員間で注意しあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 保佐人のついでにいる人がおり、連携をとっている。成年後見制度についてはパンフレットなどで知識を深めるよう努力している。日常生活自立支援事業に関してはまだ理解不足である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族等からの質問に対して説明し理解して頂けるよう努力している。また改訂等あった場合は書面で送っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見、不満、要望、苦情などは受入れ、職員間でミーティングし方法等を考慮し利用者、家族へ説明している。意見箱を設置しておりミーティングなどで話し合い経営者へ報告を行っている。 (外部評価) 今年度の目標「相手の気持ちや立場を考えて、ありがとう、すみませんと言える人になるう」を見えるところに掲示し、家族が意見や要望を表せる機会を増やすように取り組んでいる。また、意見や要望を前向きに受け止め、運営に活かしていけるよう努めている。	開設当初に作った家族会も家族の高齢化等により現在は開催されていない。新規の入居者も増えてきており、家族からの要望を聞く機会をつくるためにも家族会の再開を望みたい。

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 最低月1回はミーティングを行い、意見交換をしている。	
			(外部評価) 管理者は昼食を職員と一緒に取るなど、日頃から話しやすい関係づくりに努めている。毎月のミーティング記録は本社にも提出し、検討され業務に反映されている。法人の他事業所との合同勉強会や運営推進会議等に参加し、運営に意見を出せるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員から個人的な相談等、希望があれば聞く体制を整えている。またそれぞれのポジションの立場からのミーティングを行い報告を受ける体制を整えている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各研修への参加をし知識を高める努力をしている。実践者研修など研修を希望していない人でも順番に受講してもらうようにしている。パートの方も含め全員研修を受ける機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修や連絡会などで交流を深め情報交換などしている。地区のグループホーム会に参加し交流を図っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 話しをよく傾聴し不安の解消や困っている事を聞くようにしている。ホーム内で情報を共有しすぐ対応できるように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前から関わり相談に乗っている。時には家族の悩みまで聞くこともある。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時、さまざまなサービス、利用方法を提供している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) コミュニケーションを取りながら昔のことや知っている事を話し合い、教えてもらいながら喜怒哀楽を共にしようと努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来訪時に話し合いをしたり電話などで話しをする時間を作ったり、一緒に支える関係を築いている。定期的に担当者が家族へ手紙やまつやま通信を出したりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人との面会はできるようにしている。馴染みの場所への支援についてはいろいろ問題があり現状ではできていない。時々車でドライブへ行ったり、近所の散歩などの支援は行っている。 (外部評価) 近所に住んでいた利用者もおおり、散歩時に知り合いから声をかけられ懐かしい話をしたり、定期的に訪問してもらったりと関係継続に努めている。墓参りや通院、外泊等は家族の協力をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常生活の中はもちろんの事レクリエーション、行事などを通じて関わりを持つように努力している。その人のスタイルを重視している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病院入院時は対応しているが他はしていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 随時話し合う場をもっている。本人の希望に沿うよう努力している。	
			(外部評価) 個別のケース記録に体調や気づき、家族からの情報や要望等を記録したり、申し送りなどで思いや意向を職員全員が共有している。多様な情報の整理を今後の課題としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族からの情報をもらっている。聞いた話などをファイルに入れて把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間の事を経過記録に書き、把握に努めている。気づいた点の情報交換し把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回は必ずカンファレンスを行いケアプランに反映させている。	
			(外部評価) 毎月のミーティングの後に職員全員でモニタリングし情報交換し現状に即したケアができるよう取り組んでいる。6か月毎の計画の見直しは、利用者毎の担当者と計画作成担当者がカンファレンスし介護計画を作成し、利用者と家族に説明し同意を得ている。また毎月の往診後、医師とのカンファレンスを行い助言を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 常にその人の言葉、気づきを記入するように努めている。個人のケアノートを作り活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) サービスに関わる希望等あればどんな対応ができるかをスタッフ間で話し合い、代表者の意見を取り入れながら対応していくよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内会長、民生委員、包括センター、市役所からの情報を活用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 継続した医療が受けられるよう家族に協力を要請し、 支援している。	
			(外部評価) 利用者と家族が希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。毎月往診があり健康管理を行っている。管理 者とホーム長は看護師でもあり、往診時や通院時など 医師への情報提供を行っている。また家族に通院介助 をお願いする際は、担当医師から情報を受けれるよう 取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気づきなどあれば経過記録への記入や看護師へ相談、 報告をし支援している。看護師も医療機関への連絡を 取って適切な支援ができるようしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時のサマリー交換、見舞いや電話などで情報交 換を行い連絡し合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族に看取り指針を説明し主治医と家族、スタッフで 状況に応じて話し合いをしている。	
			(外部評価) 重度化及び看取りに関する指針を作成し、利用者と家 族の意思を確認し担当医師とも相談しながら、事業所 でできるケアについて説明している。職員の看取りに 関する具体的な研修を検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) スタッフにはできるかぎり救命救急の講習を受けてもらっている。定期的には行っていないが必要に応じて行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時には市から情報が届くシステムになっている。年2回は防火訓練を行っているが地域との協力体制はまだあまり築けていない。地域の防災訓練に参加、協力体制を築いている途中である。 (外部評価) 火災の避難訓練は消防署立ち合いのもと、運営推進会議のメンバーも参加して行っている。電磁調理器やプリンター等も整備している。運営推進会議では地域の参加者から水害時の避難等に関する情報を得て検討している。震度4以上の場合など緊急時は、職員全員が速やかに事業所に出動することになっている。	重信川の河川敷に近いため水害危険地区になっている。避難訓練等で、地域の防災組織と連携することが望まれる。また、積極的に地域との関係づくりに努め、協力体制が築かれることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人記録の保護、個人情報の公開の有無の確認、一人一人にあった言葉かけ・対応に努めている。 (外部評価) 理念や行動指針、今年目標等、目に付くところに掲示し、利用者の人格を尊重した声かけや利用者のペースに合わせた対応が意識して行われるよう努めている。静かな環境の中で、利用者がその人らしく自由に暮らせるよう支援することを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 理解力に応じ説明したり支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理強いはせず個々にあったペースで過ごしてもらっている。なるべく本人の意思、希望に沿った支援をするように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望や好みを聞いて支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) マイ箸やマイ茶碗、湯呑みがあり、使用されている。月に何度かは季節の料理を出している。食器の片付けなど出来る人はやってもらっている。食事介助が必要な人がいるためスタッフ、利用者が一緒には食事をとれていない。	
			(外部評価) 食材は業者から購入し、一方のユニットでまとめて調理を行い、食事の時間は職員が利用者に時間をかけた十分なサービスが提供できるよう工夫している。もちつき大会や誕生会、芋炊き、そうめん流し等の行事食では、利用者の希望を取り入れて利用者を楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人記録に食事量や水分摂取の状態を記入しており、そのつど状況に応じて支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後はできていない。夕食後に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的に声掛けをしトイレ誘導、失禁時はパット交換している。必要な時はポータブルトイレで排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) ほとんどの利用者は日中は時間をきめてトイレ誘導している。夜間はパットの交換、ポータブルトイレを使用することもあるが、排泄の自立に向けた支援をしている。季節に合わせて利用者ごとにパットの種類や枚数等細やかに検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日個別に便の確認を行い、出ていない時などは薬を使ったり、運動への働きかけをしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回の入浴になっているが本人の体調や希望によって回数を増やしたり時間もずらしたりしている。ただ夕方や夜間の入浴はしていない。	
			(外部評価) 週2回を基本として午前中に入浴している。入浴の時間や順番等の要望は、できるだけ対応できるよう調整している。入浴剤を使用したり、香りを工夫するなど、利用者に楽しんで入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室温や布団の調整を行い安心して眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は看護師が行っており、利用者が服薬する時にスタッフが支援している。薬の内容は個人ファイルに入れいつでも見ることができる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 体操指導、花の水やり、洗濯物たたみ等できる人は役割を持ってして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外出する事は職員の人数状況で無理だが家族への協力、買い物時一緒に外出できるよう心がけている。中庭には自由に出入りできるようにしている。季節によりドライブは実施している。 (外部評価) 気候の良い時期には散歩に出たり、日常的に中庭や縁側で日向ぼっこをしている。年間行事計画を作成し、そうめん流しや芋掘り、地方祭、他事業所の運動会等で、季節を感じられる外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる方は買い物時の使用や、お金を所持されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 各部屋に電話があり好きな時間に使えるようになっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有空間を広くとっている。季節の花を飾ったり、カレンダーなど作っている。	
			(外部評価) 日中利用者が過ごす食堂やリビングは十分な広さがあり、広い窓からは陽がよく入り明るい空間である。リビングから続く縁側や中庭は開放感があり居心地がよい。トイレや脱衣室は十分な広さがあり、快適に使える。縁側や玄関ホール、2つのユニットは行き来がしやすく一体感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間にソファをおいたり玄関にイスを置いたり、畳の間もあり自由に過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物は居室に置いている。居室内の物は使い勝手がよいように位置をかえることもできる。	
			(外部評価) 自宅から家具や寝具、テレビ等持ち込んで使い慣れた物を使用している。居室は整理整頓ができていて、清潔に保たれている。昼寝の時間には安眠できるように部屋を暗くするなど工夫している。季節の変わり目には家族の協力も得て衣替えや寝具の交換を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリー、手すり設置で歩行器や車椅子でも動きやすいようにしている。トイレや部屋の前に名札をつけ分かり易いようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104555
法人名	有限会社ユニット・ワン
事業所名	グループホームユニットまつやま
所在地	松山市井門町790-1
自己評価作成日	平成24年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 10 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>広い敷地を利用し季節の行事を取り入れるようにしている。常に音楽(ピアノ、ハーモニカ等)に触れる環境、季節の花々を感じることが出来る環境作りに努めている。 穏やかな生活が送れる様、援助している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園が広がる自然豊かなところにある事業所は、広い敷地に平屋の建物で、利用者、職員共にゆったりと生活できる。2つのユニットは玄関ホールでつながっており、利用者と職員は自由にユニット間を行き来している。リビングからは中庭や縁側に自由に出ることができ、憩いの場所になっている。「ゆったりとした癒しのなかで過ごしていただきたい」という思いで、医療と介護の専門職が協力しながら、利用者の落ち着いた暮らしを支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ユニットまつやま

(ユニット名) B棟

記入者(管理者)
氏名 日野 洋子

評価完了日 平成24年 9月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 新しくユニットまつやまの独自の理念を作り、家族・来訪者の方にも分かるよう玄関掲示、スタッフルームに掲示することで理念の実施に努めている。</p> <p>(外部評価) 「地域の人たちとお付き合いを大切にする」「目配り、気配り、思いやりのある介護を提供する」「安全安心を守るため優先順位、臨機応変の対応と誠実な態度で望む」という「私たちの理念」をもとに、ユニット毎に具体的な言葉で行動指針を作成し、全員で理念を意識しながら毎日の業務にあたっている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 回覧板等で地域の催し物を知り参加させて頂いている。</p> <p>(外部評価) 回覧板を通じて地域の情報は把握している。町内会長や民生委員から市民大清掃や公民館の行事への参加の誘いを受け、利用者と一緒に参加している。地方祭の神輿は毎年来てもらいお接待をして交流している。</p>	近所の高等学校は災害時の避難場所にもなっており、普段から積極的に交流を持ち、事業所のことについて情報提供しておくことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 見学時等に相談に乗ることもある。地域主催の独居の人対象の施設説明会に参加し、話しをさせて頂いた。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回行い、利用者の家族や市の職員、地域代表 の方に参加してもらっている。議事録も玄関に張り出 しいつでもだれでも閲覧できるようにしている。季節 ごとの行事の写真やまつやまだよりを見て頂いてい る。	運営推進会議に地域の方が参加しやすい工夫を期待し たい。
			(外部評価) 今年度は会議の進行を工夫することで、参加者から積 極的な意見が出るようになってきた。各方面からの参 加者を増やす取組みとして、避難訓練を兼ねて開催し たり、新規入居者の家族の参加を促したりしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 事業連絡会には出席している。また推進委員会にも参 加してもらっている。市や社協、包括センターなどの 研修に参加し担当者と話したりしている。	
			(外部評価) 運営推進会議を通じて市担当者、地域包括支援セン ター職員との積極的な情報交換と協力関係を継続して いる。災害時には直接市からの情報が得られるようシ ステムを整備している。生活保護受給の利用者を支援 するため、生活福祉課担当者との協力関係を築けるよ う取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 自動ドアだがスイッチを別にしており職員が操作しな いと開かない。希望時には希望にそうように対応し入 居者さんを外に出している。	
			(外部評価) 安全面を考慮し玄関の施錠は行っているが、職員と一 緒に出かけるなど見守りをして、利用者の自由な暮ら しを心がけている。職員は普段から身体拘束をしない ケアについて意識しながら業務にあたっており、管理 者は機会あるごとに指導している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉、身体的虐待がないか職員間で注意しあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度についてはパンフレットなどで知識を深めるよう努力している。日常生活自立支援事業に関してはまだ理解不足である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族等からの質問に対して説明し理解して頂けるよう努力している。また改訂等あった場合は書面で送っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見、不満、要望、苦情などは受入れ、職員間でミーティングし方法等を考慮し利用者、家族へ説明している。意見箱を設置しておりミーティングなどで話し合い経営者へ報告を行っている。 (外部評価) 今年度の目標「相手の気持ちや立場を考えて、ありがとう、すみませんと言える人になるう」を見えるところに掲示し、家族が意見や要望を表せる機会を増やすように取り組んでいる。また、意見や要望を前向きに受け止め、運営に活かしていけるよう努めている。	開設当初に作った家族会も家族の高齢化等により現在は開催されていない。新規の入居者も増えてきており、家族からの要望を聞く機会をつくるためにも家族会の再開を望みたい。

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 最低月1回はミーティングを行い、意見交換をしている。 (外部評価) 管理者は昼食を職員と一緒に取るなど、日頃から話しやすい関係づくりに努めている。毎月のミーティング記録は本社にも提出し、検討され業務に反映されている。法人の他事業所との合同勉強会や運営推進会議等に参加し、運営に意見を出せるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員から個人的な相談等、希望があれば聞く体制を整えている。またそれぞれのポジションの立場からのミーティングを行い報告を受ける体制を整えている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各研修への参加をし知識を高める努力をしている。実践者研修など研修を希望していない人でも順番に受講してもらうようにしている。パートの方も含め全員研修を受ける機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修や連絡会などで交流を深め情報交換などしている。地区のグループホーム会に参加し交流を図っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 話しをよく傾聴し不安の解消や困っている事を聞くようにしている。ホーム内で情報を共有しすぐ対応できるように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前から関わり相談に乗っている。時には家族の悩みまで聞くこともある。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時、さまざまなサービス、利用方法を提供している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) コミュニケーションを取りながら昔のことや知っている事を話し合い、教えてもらいながら喜怒哀楽を共にしようと努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来訪時に話し合いをしたり電話などで話しをする時間を作ったり、一緒に支える関係を築いている。定期的に担当者が家族へ手紙やまつやま通信を出したりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人との面会はできるようにしている。馴染みの場所への支援についてはいろいろ問題があり現状ではできていない。時々車でドライブへ行ったり、近所の散歩などの支援は行っている。	
			(外部評価) 近所に住んでいた利用者もおおり、散歩時に知り合いから声をかけられ懐かしい話をしたり、定期的に訪問してもらったりと関係継続に努めている。墓参りや通院、外泊等は家族の協力をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常生活の中はもちろんの事レクリエーション、行事などを通じて関わりを持つように努力している。その人のスタイルを重視している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病院入院時は対応しているが他はしていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1か月に1回はカンファレンスをし、本人の希望に沿うよう努力している。	
			(外部評価) 個別のケース記録に体調や気づき、家族からの情報や要望等を記録したり、申し送りなどで思いや意向を職員全員が共有している。多様な情報の整理を今後の課題としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族からの情報をもらっている。聞いた話などをファイルに入れて把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間の事を経過記録に書き、把握に努めている。気づいた点の情報交換し把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回は必ずカンファレンスを行いケアプランに反映させている。	
			(外部評価) 毎月のミーティングの後に職員全員でモニタリングし情報交換し現状に即したケアができるよう取り組んでいる。6か月毎の計画の見直しは、利用者毎の担当者と計画作成担当者がカンファレンスし介護計画を作成し、利用者と家族に説明し同意を得ている。また毎月の往診後、医師とのカンファレンスを行い助言を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 常にその人の言葉、気づきを記入するように努めている。個人のケアノートを作り活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) サービスに関わる希望等あればどんな対応ができるかをスタッフ間で話し合い、代表者の意見を取り入れながら対応していくよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内会長、民生委員、包括センター、市役所からの情報を活用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 継続した医療が受けられるよう家族に協力を要請し、 支援している。	
			(外部評価) 利用者と家族が希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。毎月往診があり健康管理を行っている。管理 者とホーム長は看護師でもあり、往診時や通院時など 医師への情報提供を行っている。また家族に通院介助 をお願いする際は、担当医師から情報を受けれるよう 取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気づきなどあれば経過記録への記入や看護師へ相談、 報告をし支援している。看護師も医療機関への連絡を 取って適切な支援ができるようしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時のサマリー交換、見舞いや電話などで情報交 換を行い連絡し合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族に看取り指針を説明し主治医と家族、スタッフで 状況に応じて話し合いをしている。	
			(外部評価) 重度化及び看取りに関する指針を作成し、利用者と家 族の意思を確認し担当医師とも相談しながら、事業所 でできるケアについて説明している。職員の看取りに 関する具体的な研修を検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) スタッフにはできるかぎり救命救急の講習を受けてもらっている。定期的には行っていないが必要に応じて行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時には市から情報が届くシステムになっている。年2回は防火訓練を行っているが地域との協力体制はまだあまり築けていない。地域の防災訓練に参加、協力体制を築いている途中である。 (外部評価) 火災の避難訓練は消防署立ち合いのもと、運営推進会議のメンバーも参加して行っている。電磁調理器やプリンター等も整備している。運営推進会議では地域の参加者から水害時の避難等に関する情報を得て検討している。震度4以上の場合など緊急時は、職員全員が速やかに事業所に出動することになっている。	重信川の河川敷に近いため水害危険地区になっている。避難訓練等で、地域の防災組織と連携することが望まれる。また、積極的に地域との関係づくりに努め、協力体制が築かれることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人記録の保護、個人情報の公開の有無の確認、一人一人にあった言葉かけ・対応に努めている。 (外部評価) 理念や行動指針、今年目標等、目に付くところに掲示し、利用者の人格を尊重した声かけや利用者のペースに合わせた対応が意識して行われるよう努めている。静かな環境の中で、利用者がその人らしく自由に暮らせるよう支援することを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 理解力に応じ説明したり支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の意向を聞いて出来るだけ規則生活が送れるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望や好みを聞いて支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) マイ箸やマイ茶碗、湯呑みがあり、使用されている。月に何度かは季節の料理を出している。食器の片付けなど出来る人はやってもらっている。食事介助が必要な人がいるためスタッフ、利用者が一緒には食事をとれていない。	
			(外部評価) 食材は業者から購入し、一方のユニットでまとめて調理を行い、食事の時間は職員が利用者時間に合わせた十分なサービスが提供できるよう工夫している。もちつき大会や誕生会、芋炊き、そうめん流し等の行事食では、利用者の希望を取り入れて利用者を楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人記録に食事量や水分摂取の状態を記入しており、そのつど状況に応じて支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後はできていない。夕食後に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的に声掛けをしトイレ誘導、失禁時はパット交換している。必要な時はポータブルトイレで排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) ほとんどの利用者は日中は時間をきめてトイレ誘導している。夜間はパットの交換、ポータブルトイレを使用することもあるが、排泄の自立に向けた支援をしている。季節に合わせて利用者ごとにパットの種類や枚数等細やかに検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日個別に便の確認を行い、出ていない時などは薬を使ったり、運動への働きかけをしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回の入浴になっているが本人の体調や希望によって回数を増やしたり時間もずらしたりしている。ただ夕方や夜間の入浴はしていない。	
			(外部評価) 週2回を基本として午前中に入浴している。入浴の時間や順番等の要望は、できるだけ対応できるよう調整している。入浴剤を使用したり、香りを工夫するなど、利用者に楽しんで入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室温や布団の調整を行い安心して眠れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は看護師が行っており、利用者が服薬する時にスタッフが支援している。薬の内容は個人ファイルに入れいつでも見ることができる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 花の水やり、洗濯物たたみ等できる人は役割を持ってして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外出する事は職員の人数状況で無理だが家族への協力、買い物時一緒に外出できるよう心がけている。中庭には自由に出入りできるようにしている。季節によりドライブは実施している。 (外部評価) 気候の良い時期には散歩に出たり、日常的に中庭や縁側で日向ぼっこをしている。年間行事計画を作成し、そうめん流しや芋掘り、地方祭、他事業所の運動会等で、季節を感じられる外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる方がいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からの電話に出たり、手紙を書いたりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有空間を広くとっている。季節の花を飾ったり、カレンダーなど作っている。	
			(外部評価) 日中利用者が過ごす食堂やリビングは十分な広さがあり、広い窓からは陽がよく入り明るい空間である。リビングから続く縁側や中庭は開放感があり居心地がよい。トイレや脱衣室は十分な広さがあり、快適に使える。縁側や玄関ホール、2つのユニットは行き来がしやすく一体感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間にソファをおいたり玄関にイスを置いたり、畳の間もあり自由に過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物は居室に置いている。居室内の物は使い勝手がよいように位置をかえることもできる。	
			(外部評価) 自宅から家具や寝具、テレビ等持ち込んで使い慣れた物を使用している。居室は整理整頓ができていて、清潔に保たれている。昼寝の時間には安眠できるように部屋を暗くするなど工夫している。季節の変わり目には家族の協力も得て衣替えや寝具の交換を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリー、手すり設置で歩行器や車椅子でも動きやすいようにしている。トイレや部屋の前に名札をつけ分かり易いようにしている。	